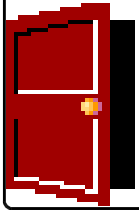


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

No 21

桑村小学校 令和5年5月30日 文責 小長谷一史

思考を整えるための読書

まず始めに、私は幼少期から体を動かして遊ぶ子供でした。そのため、今まで読書に親しんだ時間はあまり多くないと思いますが、自分の半生を振り返り、自分と読書のつながりを思い出してみました。

小学生の頃は『かいぞくポケット』シリーズにおもしろさを感じ、図書室の本を借りて読んでいたのを思い出します。乗り物酔いの激しい私でしたが、登場人物と一緒に船に乗って冒険に出たら楽しいだろうなとイメージを膨らませていました。『かいぞくポケット』は、章の終わりに「～したら次の章にすすんでよろしい」のような課題が出ます。しかし、「自分宛の手紙が届いたら次の章を読んでよい」という課題をクリアすることができずに、読むことをやめてしまいました。小学生に自分宛の手紙は中々届きません。しかし、夢中になって読み進めた本です。

高校生の頃には、初めて自分の生活に必要だと感じて本を購入しました。「スラムダンク勝利学」という本です。物語や小説ではなくスポーツ書です。根性の正しい使い方や勝つための正しい考え方などが、スラムダンクの場面を使いながら書かれていました。当時、高校球児だった私は、試合でもいつも通りのプレーができるようにメンタル面を強化したいと考えていました。スラムダンクと高校野球とを「勝つための考え方」で関連付けて読み進めました。夏の大会まで、自分の思い描く姿をイメージして、プラス思考の癖をつけることを意識して練習に取り組むことができました。

「将来は学校の先生になろう」と意識しだした大学生活では、灰谷健次郎の本を読みました。先生と子供との関わりをどこか子供目線で書いてある内容がおもしろく、夢中になって読みました。1年生の国語の教科書に載っている「ろくべえまってるよ」も、話に出てくる子供たちが大人に対して言う台詞が面白いですね。子供の頃の感覚や物事の見方を忘れてほしくないと感じるお話です。

私と読書とのつながりを振り返ると、自分が夢中になって取り組んでいることを整理するために読書をしていたように思います。これだけの情報化社会になり、スマホでも検索すれば必要な情報が取得できる現代においても、ページをめくり活字を読むことでゆっくり自分の思考を整理できると感じます。

----- 切 り 取 り 線 -----

「読書活動の扉を開く」（5月30日号）を読んだ感想

（ ）年（ ）月（ ）日